

# 五郎沼通信



第19号 平成30年2月発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。  
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」  
事務局 瀬川峰雄  
紫波町南日詰字小路口70-1  
電話：019-672-2656 (FAX兼用)  
携帯：090-2270-6771  
m-mail：segawa@mineo.jp  
Pcmail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

## 五郎沼の桜枝払いをしました

戊年の今年は1月初めから中旬にかけて、雪が本当になく、大変穏やかな、過しやすいい冬だと思っていました。1月20日過ぎより大寒波が到来し例年以上に雪が降り、気温もマイナス15度くらいにやはり幾度かなり降りました。

そんな今年の冬ですが、五郎沼の桜の枝払いを例年通り、五郎沼付近の小路口・箱清水地区合同で行いました。例年だと氷の上を歩きクルミ・柳の木を伐採をしていましたが、当日は気温

が緩み氷上では心配されましたので、てんぐ巣病罹患枝(りかんし)と徒長枝(とちようし)の除去を中心に行いました。

今回のボランティアで、今年も五郎沼の桜はこの春もすばらしい花を咲かしてくれると思います。  
また、今回中止をしました雑木の伐採ですが、地域の伐採のプロに再度観てもらった結論は「素人では到底むり、ケガをする可能性が高い」と話しをされました。そこで、今後、この桜以外の雑木は伐採プロにお願ひするため、町の「地域づくり活動補助金」へ申請予定です。



てんぐ巣病の削除



徒長枝の削除



沼の中で一番弱っている根っこ脇より育っていた幹(肥料を入れたからか?)



大きくなりすぎた東側堤付近の雑木

## 「紫波五郎沼歴史ネット」ホームページ公開!

このほど地元の方々の協力により、インターネットで五郎沼を中心とした歴史と活動を特化した紹介し、後世に伝えていこうというためにホームページが立ち上がりましたので、冒頭の趣旨部分をご案内します。



このホームページは、紫波町の歴史文化を「読み解き、掘り起こし」、地域の「魅力を発見し」、その情報を「共有・発信」しながら、地域の活性化を支援する開かれたサイトです。

紫波町には豊かな歴史文化遺産が数多く残されています。かつて紫波町の地は、蝦夷勢力の中心であったことから、律令政府がすすめる東北開拓の最後の拠点となった地域です。古くからこの地が北東北において地勢的に重要

な地であったことから、この地に樋爪氏が比爪館を、斯波氏が高水寺城を造営したのは、歴史的な必然ともいえます。このような歴史的な背景から、紫波町の地は時代転換の画期にはたびたび歴史の舞台に登場し、長い歴史の推移を物語る歴史文化遺産が数多く残されています。

地域の歴史文化を読み解き、掘り起こします。地域の歴史文化の本質的な価値を理解するためには、地域に暮らす人々の視点で、より豊かで多様かつ具体的な地域の歴史像を再構築することが大切です。

紫波・五郎沼ネットは、地域に残されている歴史文化や生活文化の実像を掘り起こし、読み解きながら、地域の活性化につながる開かれたサイトです。

※「五郎沼通信」バックナンバーも見られる予定になっています。また、地元の宝探し協力隊も募集中とのことです。



「紫波五郎沼歴史ネット」URL  
⇒ <http://gorounuma.jp/>



ホームページ「紫波五郎沼歴史ネット」ホームページ



# 比爪館を「国指定」目指し地域を磨こう！

2018年1月21日に平泉関連史跡連携協議会主催で新春フォーラムが開催されました。

1部は鈴木氏（町教育委員会文化財専門員）より「大銀Ⅱ遺跡発見報告会」とし、箱清水地区の新し尿処理場の工事に伴う27～28年の発掘調査まとめと29年の新たな発掘結果の話をしていただきました。2部は「もう一つの平泉」～国指定史跡をめざして～のテーマで羽柴氏（県埋蔵文化財センター）八重樫氏（平泉町まちづくり推進課長・岩手大学准教授）と鈴木氏とで行われました。

鈴木氏のお話しは、五郎沼通信でも何回かお知らせをしてきましたが、大銀Ⅱ遺跡（し尿処理場付近）では比爪館（赤石小学校付近）にはなく、それらどちらかと言うと比爪館と比較して位が高い方の可能性がある遺跡が発見されたので、益々重要な地域と思われまます。

2部のパネルディスカッションで羽柴氏は、比爪に「国指定」になる価値は十分にあると言われました。平泉の遺跡も全て「国指定」ではないですが、世界遺産の第一歩は「国指定」であり、その運動で世界遺産になった訳で、「文句なく比爪遺跡は国指定にできる」と幾度となく話しをされていました。

また、八重樫氏も「地方創生とは地域の宝を磨くことであり、未来を創っていく子供たちに我々世代は何を残していけるのか？」と話され、平泉では「我が故郷には世界遺産があるよ！」子供たちが、胸を張って言えるようになってきました。そして、現実的には、国指定になればメ

リットとしては固定資産税等の税金が免除になります（自治体には国から相当額が配布になり自治体負担はない）が、デメリットもあります。それは、自分の所有でも、勝手には売り買いができなくなり、必ず国の許可が必要になるとのことで自由さがなくなります。しかし……

「未来を創っていく子供たちに何で自信を持たせるか？」の考え方で「比爪館」には十分に備わっている訳で、より具体的に進めることができると考えられます。



## 五郎沼が築堤されたころ・比爪藤原氏の時代（7）

県立博物館が平成26年に「比爪 もう一つの平泉」を開催時に当通信の平成26年11月号で案内済みの「五郎沼経塚」に関連して再度、石幡さんに投稿していただきました。



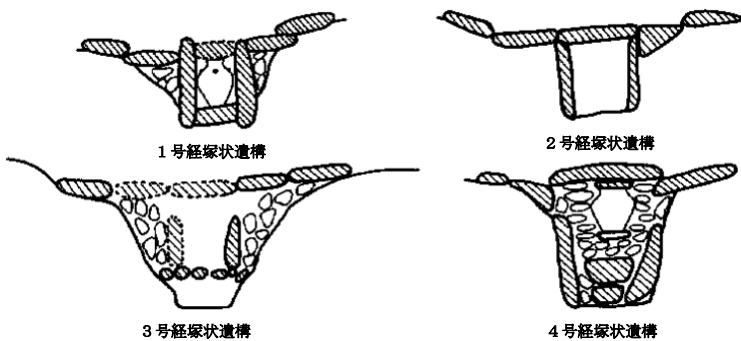
五郎沼堤体の南西部の五郎沼経塚跡

### 紫波町の経塚

平泉では町の中心にある金鶏山に経塚があり、その周辺に経塚が存在します。紫波町にも五郎沼の経塚を中心として東西の山々に多くの経塚が存在します。東には有名な山屋の経塚（下図）白山神社の経塚があり、西には城内山（矢巾）東根山の中腹、弥勒地、新山神社、大瀬川（花巻）などに経塚が存在します。まだ発見されていない経塚もあると思います。紫波の地に

平安を願って多くの経塚で囲み、極楽浄土にしようとした比爪藤原氏の思いが伝わってくるように思われます。

（石幡談）



山屋館経塚検出の遺構概念図（S=1/30）

### 経塚とは？

経典を主体に埋めた場所をいいます。营造は10世紀の終り頃、日本で始まります。仏教的作善行為の一種で、当初は末法思想を背景に、弥勒菩薩が釈迦の入滅後56億7千万年して下生し、竜華樹の下で説法するときこそなえて、それまで経典を伝えたいとい



五郎沼経塚の「経筒」とも推測される素焼きの筒型土製品（左）と「経瓶」と推測される須恵器系陶器壺（紫波町教育委員会蔵）

う意図が含まれていました。しかし、そうした行為自体が作善であり、現世利益、極楽往生など一般的功德が目的でありました。平安時代末期から追善供養も加わりました。埋納経典は『法華経』が多く、経典書写の材質により、紙本経塚（紙に書いたもの）、瓦経塚（粘土板に錐などで書いて焼いたもの）、銅板経塚（銅板に彫ったもの）、滑石経塚（滑石に刻んだもの）、礫石経塚（石に書いたもの）、貝殻経塚（貝殻に書いたもの）などに分けています。紙本経塚は各時期を通じて最も多く、礫石経塚は江戸時代に特に多いです。なお、紙本経塚は通常経筒に納め、これを小石室に安置し、ほかに鏡、仏具、利器、銭貨などを合せ納めて土盛りや石積みをしたものが多いです。（ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説）